

つなぐ KOBE アート募金（ふるさと納税）

団体名 特定非営利活動法人プラネット映画保存ネットワーク

<p>団体の課題 (困っていること, 改善すべきだと考えていること等)</p>	<p>神戸に開設して 12 年経つ民営のフィルムアーカイブである神戸映画資料館と、その所蔵資料の調査事業を担う一般社団法人神戸映画保存ネットワークを一体化し、NPO 法人プラネット映画保存ネットワークを設立しました。2014 年より文化庁の「美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業」を受け、フィルムの調査研究が飛躍的に進んできました。しかしながら、神戸映画資料館の恒常的にかかる運営経費(家賃や人件費等)はあらゆる補助制度の対象から外れるため非常に不安定な運営状態です。今回の「神戸市文化芸術団体支援事業」への登録を好機と捉え、NPO 法人化することで運営体制を整え、市民の志しとしての寄付を受けるに相応しい活動を行ってまいります。</p>
<p>団体のビジョン (目指していること, 支援を受けて取り組みたいこと等)</p>	<p>個人のコレクションから始まった民営の資料館として、常に人と予算が不足するなかで見えてきたビジョンがあります。それは、独力ではなく、関心を持ってくださる方々とともにアーカイブ活動そのものを行うこと——一般の映画好きのみなさんとパンフレットやポスター、チラシの整理を行ったり、専門家のみなさんと研究対象となる資料の映画史的な価値を一緒に見出す——そんな開かれたフィルムアーカイブをわたしたちは目指しています。</p> <p>支援を受けて取り組みたいことは、まず第一に運営体制の安定化、次に資料の適切な保存環境の構築です。</p>
<p>寄附者に対する P R</p>	<p>神戸映画資料館は、映画フィルム、書籍、ポスター、機材などを収集・保存・公開する施設です。収蔵するフィルムは 16000 本以上で、国内にある民営のフィルムアーカイブとしては最大規模です。フィルムアーカイブとは映画を未来に残すための博物館で、入場料収入などの営利事業だけで運営することはほぼ不可能です。開館から約 10 年は、館長が一部経費を負担するなどして維持してきましたが、この体制では「未来に残す」という重要な役割を果たすことができません。そういう事業は国や地方自治体に任せれば良いと思われるかもしれませんが、民営だからこそ残すことができた資料(かつては軽視されていた分野のものなど)がたくさんあります。一個人からはじまったこのアーカイブをみなさんのお志しで支えてください。</p>
<p>寄附者への返礼品</p>	<p>1口1万円 鑑賞券2枚</p>

募金の受付期間：2020 年 1 月末まで。